



xxxx からのコメント

「何が見える?」「見えないことは何?」この問いかけに対して、子供達は彫刻を前にして真剣に考え、自分の言葉で伝えようとしていました。どのように表現したらよいか戸惑い、考え込む場面もありましたが、イメージが言葉にできたときや白鳥さんや友達と思いが通じ合ったときは、とても嬉しそうでした。そのどちらもが本当に大切な時間であったと思います。

この音声ガイドづくりは、子供達はもちろん、関わったすべての人にとって、彫刻の見方が広がる体験となりました。

自分だったら、何と言葉にするだろう…。見初小学校六年生のガイドを聴きながら、多くの人に彫刻と向き合う楽しさを味わってほしいです。

(学校教育課 XX)

野外彫刻は、誰もが触れることのできる、もっとも身近なアート。でも、近くにありすぎるからこそ、気づかないこと、見えなくなることがありますよね。大地や空や空気がそこにあるように、いつもの街並み、いつも通る道の風景の中に、宇部の彫刻はあります。そして、静かに私たちの暮らしを見守っている。空を飛ぶ鳥や、路地を横切る猫たちと、お話できたら、仲良くなれたら嬉しいですね。そんな風に、彫刻とお話ができたら、仲良くなれたら素敵だと思いませんか? 昨日、悲しかったこと。今日、嬉しかったこと。そして、明日の夢のこと。彫刻たちは、きっとあなたのお話に耳を傾けて、受け止めてくれるでしょう。そして、彫刻とあなたがしたお話を、また別の誰かにお話すること。そう、「ものがたり」ができれば、もっともっと素敵だと思いませんか? 世界でたったひとつの、あなたと彫刻との「ものがたり」を、ぜひ、聞かせてください。

(日沼禎子)

UBE ビエンナーレ事務局

(宇部市 観光・シティプロモーション推進部 UBE ビエンナーレ推進課)

〒755-0001 山口県宇部市大字沖宇部 254 番地 ときわ湖水ホール

電話 : 0836-51-7282 9:00 ~ 17:00 (土日祝は除く) Fax : 0836-51-7205

E-mail: ubebiennale@city.ube.yamaguchi.jp



UBE ビエンナーレ

山口県宇部市彫刻教育推進事業



UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）

緑と花と彫刻のまちとして知られる宇部市。UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、戦後のまちの美化と心の豊かさを求める市民運動をきっかけとして、1961年にはじまった日本初の大規模な野外彫刻の国際コンクールです。湖を望む緑豊かなときわ公園を舞台に、2年に一度開催されています。展覧会終了後、出品作品の一部は宇部市のコレクションとして市内各所に恒久設置される仕組みで、これまでに市内に設置された野外彫刻は約200点。まちづくりにアートを取り入れた先駆的な試みとして、歴史的にも高く評価されています。2019年秋開催の第28回 UBE ビエンナーレには、イタリア、フィリピン、台湾、日本の4カ国のアーティストによる15点の野外彫刻が出品されました。



彫刻教育推進事業

宇部市では2011年から教育委員会と連携し、まちの財産である彫刻を活用した様々な教育プログラム「彫刻教育」の実践に取り組んできました。2015年からは市内の全小学校4年生を対象に、UBE ビエンナーレ彫刻の丘で「野外彫刻鑑賞授業」を実施しています。



彫刻の丘で音声ガイドをつくろう！

朝出かけるとき、夕方買い物をするとき、ひとびとの生活の様々なときに、ふとかわらにある野外彫刻。作者の名前や作品の名前など、簡単な説明書きは作品のそばに書いてありますが、美術館に出かけて行って展示室のなかで見るアートと違い、駅前や図書館など、まちの中で野外彫刻を目にするとき、これ作ったのはだれだろう？とか、どんなメッセージが込められているのだろう？などと考えることはあまりないでしょう。

それでも宇部のまちには、周囲の景色にすっかりなじみ、なくてはならないような存在感を放ち、まちの一部のように愛されている野外彫刻がたくさんあります。とくに子供たちは大通りや公園にある野外彫刻のことを本当によく覚えていて、いつも驚かされます。

小さな子供が夢中で野外彫刻にかけよっていき姿に出くわすとき、通り道の目印のように親しまれている野外彫刻を眺めるとき、作者や美術館の手を離れて一人歩きをはじめた作品の頼もしさや奥深さを感じずにはいられません。



今回のプログラムでは、普段の鑑賞授業のスタイルから少し離れて、日々のくらしのなかにあるような、野外彫刻とひとびとのゆるやかで自然な関係を大切にしたいと考えました。そこで、「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」の林建太さんと白鳥建二さんにナビゲーターとして加わっていただき、第28回 UBE ビエンナーレの野外彫刻を囲んでみんなであれこれとおしゃべりをするにしました。

目が見えない白鳥さんにもイメージが伝わるように、目で見たこと、体で感じたこと、考えたことをできるだけ言葉にってもらうよう声かけをしながら、子供たちが子供たち自身の力で等身大の鑑賞ができる場をつくるよう心がけました。そしてその会話をもとに台本を作成し、音声ガイドとしてみなさんに聞いていただくことで、聞いているひと子供たちの会話のなかにまぎって彫刻を楽しんでいるような気持ちになれる、そんな鑑賞ツールをつくることを目指しました。

子供たちの会話のなかで、野外彫刻はどんな姿を見せてくれるでしょうか？〈ある日〉のおしゃべりが、子供たちの、また音声ガイドを聞いてくださるみなさんの記憶のどこかに、〈ある日〉の思い出として、そっとなにかを残してくれることを願っています。彫刻のあるまちは、そんなみんなのおしゃべりや思い出がたくさんつまったまちなのでは、と思いを巡らせながら。（UBE ビエンナーレ事務局 学芸員 M）



事業実現までのながれ



下見・ブレインストーミング

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」が他館で行っているワークショップを見学したり、代表の林さんときわ公園に来てもらったり、野外彫刻を題材にどんな鑑賞ができるか妄想することに、かなり時間をかけました。



方針伺い

2018年12月に宇部市は全国で初めて共生社会ホストタウンに認定されました。今回のプログラムも、宇部市の共生社会実現への取り組みのひとつとして、関係課や教育委員会と連携しながら実施する方針を決めました。



企画・スケジュール調整

実施する小学校とのスケジュール調整や、授業の段取り・目標の整理など、校長先生や担任の先生、教育委員会の担当者と検討を重ねました。



授業の実施

授業は計4日間。彫刻教育モデル校でもある宇部市立見初小学校の6年生18名のクラスで行うことになりました。記録撮影や録音など、たくさんのひとに協力してもらいました。



録音データの編集・報告書の作成

読み直したり、前半後半に分けて読んだ部分をつないで、音声データを整えました。授業がはじまってからも、いろいろと軌道修正があったので、振り返って報告書をつくりながら、プログラムの意義を再確認しました。

420mm

表面

445mm

1	2	3
4	5	6

裏面

7	8	9
10	11	12

ラフで入れた文字数は MAX なので、それ以下であって全然構いません。
 100 文字とあるものは 50 文字くらいでも大丈夫です。多分半分くらいの方が余白があってよくなるかと。
 また区分けや見出しも適当に入れてあるので、実際 of 原稿でご指示ください。

